

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>県道の整備</p>	<p>県道391号、県道446号線は道幅が狭く、場所によっては離合もできない。道路脇の草木が生い茂り、トンネルのようになっている。地域で整備をしようにも高齢化で難しい。 大雨で、避難所に行くにしても、県道を通るのが怖いから避難しないという状況や、救急車が走行する際にも、スピードを落とさなければならないという状況がある。 そういった状況を改善するためにも、県道を整備してほしい。</p>	<p>県管理道路の草刈りについては、定期的なパトロールにより草木の繁茂状況等を把握し伐採を行うとともに、道路法面をコンクリートで覆う防草対策にも取り組んでいるところです。 御意見のあった箇所については、現地を確認した上で草刈りや防草対策等、適切な維持管理を行ってまいります。</p>	<p>道路維持課</p>
<p>地域の居場所づくり</p>	<p>子どもも大人も様々な課題を抱えている方が多くいるが、そういった困りごとを地域の力で解決できるという部分もあると思う。理解のある大人を増やしていくことと、そういった方達がつながっていくということによって解決できることが多くあると思う。 一人一人の理解ある大人の方、支援者と呼ばれる方たちが作る場所、その居場所につながることで、子供も大人もこのままでいいんだと、生きやすくなるということで、自分らしさをまた高めていくことができるのではないかと思うので、本当に教育だけ、福祉だけということではなく、重層的支援で取りこぼされがちな方々の居場所をたくさんつくっていく必要があると思う。 行政にしかできないこと、民間だからこそやれることというのがあろうと思うので、理解し合って補い合いながら、共同でやる必要性を感じている。 県は、令和6年から中間支援団体の支援に力を入れると聞いているので、共同で取り組めることがあればいいと思っている。</p>	<p>県では、地域コミュニティやNPO、企業など多様な主体の連携・協力による地域課題の解決に向けた取組及びその基盤となるコミュニティプラットフォームの整備を支援するなど、持続可能な地域社会づくりに努めています。 各地域においては、高齢者の交流の場づくりや見守り活動、地域食堂を通じた子どもの居場所づくりなど、様々な取組が自主的かつ継続的に行われているところです。 地域コミュニティやNPO等を専門的に伴走支援することを主な目的とした中間支援組織については、本県におけるその組織のあり方等を検討するため、今年度、県内の関係団体や県外の中間支援組織等から意見聴取を行っているところであり、今後、こうした御意見も参考にしながら、さらに検討を進めてまいります。 また、困難を抱える子どもや若者の悩み・問題の解決に向けては、鹿児島市に設置した、かごしま子ども・若者総合相談センターが相談対応を行っており、その更なる体制拡充を図るため、新たに今年度から、県内各地において居場所の運営や相談対応、訪問支援を行う団体等の育成・支援に取り組むこととしています。 今後とも、市町村や民間団体等の皆様と緊密に連携しながら、あらゆる方々が生き生きと活躍できる、誰一人取り残さない社会の構築を目指してまいります。</p>	<p>くらし協働課 青少年共同企画課</p>

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
国際交流の推進	<p>鹿児島は、明治時代よりも前から、薩摩スチューデントをはじめとして、海外との交流が盛んであったが、現在は、県民のパスポート取得率が全国の中でも低い状況にある。</p> <p>私は、鹿児島と海外をつなげたいという気持ちを強く持っており、母国のハンガリーとつなぐ国際プロジェクトをさせていただくなど取り組んでいるが、現在の状況をみると少し残念に感じる。</p> <p>知事は、国際交流を深めるための対応策をどのように考えているか。</p>	<p>本県は、南に開かれたアジアの玄関口としての地理的優位性や、歴史的なつながりなどを生かし、香港、シンガポール、韓国全羅北道、中国江蘇省などアジア各国（地域）との間で友好関係を結び、経済、観光、芸術、文化、青少年など各般にわたる交流を展開しています。</p> <p>また、ロンドン・カムデン区及びマンチェスター市と友好協定を締結したほか、令和元年8月には、姉妹盟約を締結している米国ジョージア州を訪問して姉妹盟約に関する確認書を取り交わすなど交流促進を進めています。そのほか、台湾屏東県との友好交流を進めることとしており、現在両県で具体的な交流の内容等について協議を行っているところです。</p> <p>学校の教育現場においては、小・中・高等学校それぞれの段階に、英語によるコミュニケーション活動を体験する機会を設け、言語や文化が異なる人々と主体的、積極的に関係を築ける児童生徒の育成に努めているところです。</p> <p>県立高校においては、36校にALTを配置し、英会話や外国の文化について学ぶ機会を確保するとともに、交流を楽しめるイングリッシュキャンプや留学体験談を聞くことができる留学フェアを行っています。</p> <p>令和4年度からは、県内の中学校・高校と台湾・ベトナム・オーストラリアの海外校とオンラインで交流するとともに、生徒を海外派遣し、語学力の向上と国際意識の醸成を図っています。</p> <p>さらに、概ね18歳から30歳代前半までの県内の青少年をアジア経済圏の主要都市である香港や台北等に派遣し、国際的な視野を持ったリーダーの育成を図る「かごしま青少年海外研修事業」や、シンガポール及び香港との交流会議の合意に基づき、高校・短大・大学生等の青少年の相互交流活動を行い、国際的感覚を持った青少年の育成や友好親善を図る「鹿児島県青少年海外ふれあい事業」を実施しています。</p> <p>今後とも、郷土を愛し、国際感覚豊かでグローバルな視点を持った人材の育成に積極的に取り組むとともに、これまでの交流を通じて形成してきた人的ネットワーク等を活用し、関係機関・団体と連携を図りながら、産業振興にも資する国際交流・協力を効果的に推進してまいります。</p> <p>なお、パスポートの取得については、県民に対する海外旅行の機運を醸成し、鹿児島空港国際線の利用促進を図るため、パスポート取得の助成を行っているところです。</p>	<p>国際交流課</p> <p>外国人材政策推進室</p> <p>義務教育課</p> <p>高校教育課</p> <p>青少年男女共同参画課</p> <p>交通政策課</p>

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
外国人観光客の受入体制	<p>コロナの状況が改善して、海外からの観光客が増えてくるかと思うが、県内では、メニューや道路標識などが外国語で表示されていないため、外国人には理解できないという意見もある。県には、今後、受入体制の充実について、新しいアイデアがあるのか。</p>	<p>外国人観光客の受入体制整備については、観光関係者を対象とした、受入体制の整備・充実に係る講習会の開催等に取り組んでいるところです。このような講習等を活用し、多言語対応メニューの導入を促すとともに、多言語対応メニューがない場合におけるスマートフォンの翻訳アプリの活用等について周知してまいります。</p> <p>また、魅力ある観光地づくり事業において、外国語を併記した観光案内標識や観光案内板を整備しているところです。</p>	PR観光課
林業大学校の設置	<p>森林の持つ公益的機能を維持・発揮させるために森林組合が果たす役割は大きいと考えており、山林作業に取り組んでいるが、再造林が進んでいない現状がある。</p> <p>再造林率が伸びない原因はいくつかあると思うが、その中でも、最大の原因は、現場で働く林業従事者が不足していることである。</p> <p>林業従事者の確保は、県下の林業事業体に共通している課題であり、林業従事者確保策として、林業大学校の設置を進めてほしい。</p> <p>もっと若者が林業に興味を持ち、短期間で、ある程度技能と知識を身につけた後に、県下の林業事業体に就職してもらうことは、鹿児島県の林業振興にも大きな効果があると考えている。</p> <p>また、林業大学校設置が具体的になってきた際には、始良市を設置場所の第一候補としてほしい。</p>	<p>県では、令和5年9月に、育成する人材像や林業担い手の確保・育成に係る基本的な方向を示した「鹿児島県林業担い手の確保・育成に係る施策の方針」を取りまとめ、同方針において、林業大学校については、既存の林業研修施設を活用するなど、可能な限り早期の設置を検討することとしました。</p> <p>こうしたことを踏まえ、関係団体や大学等で構成する「林業大学校の設置に係る基本計画策定検討会」を設置し、同検討会において設置場所等について協議が行われ、始良市にある「森の研修館かごしま」と垂水市にある「鹿児島大学農学部附属高隈演習林」を研修実施施設と位置づけることなどを内容とする基本計画案がとりまとめられました。</p> <p>その上で、令和5年12月には県としての基本計画を策定したところです。</p> <p>「かごしま林業大学校」については、令和7年4月の開校に向けて必要な準備を進めていくこととしています。</p>	森林経営課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
森林環境譲与税の活用	<p>森林環境譲与税が各自治体に交付されているが、配分率で、人口割が高率になっているため、人口は多いが、森林の少ない都市と人口は少ないが、森林面積の多い市町村への配分額に、齟齬（そご）が生じている。</p> <p>森林面積の多い市町村への配分額を多くすることが、本来の森林環境譲与税の目的に沿っていると考えるので、交付の算定基準の見直しと、もっと使いやすい制度になるように国に働きかけていただきたい。</p> <p>また、県の環境林務部の職員は林業専門職の方がほとんどだと思うが、森林環境譲与税の活用について、地域の実情に合った事業例の紹介やアドバイスをもっと積極的に行っていただき、有効活用ができるような体制づくりを行っていただきたい。</p>	<p>森林環境譲与税の譲与基準の見直しについて、県においては、県開発促進協議会や九州地方知事会を通じて、国に対し、「森林を多く有する市町村が今後も継続・拡大して森林整備を進めていけるよう譲与割合を増やすなど、その配分基準について実情に則したものに見直す」よう要望を行ってきているところです。</p> <p>森林環境譲与税の用途について、県では、地域振興局に市町村支援職員を配置し、地域課題の対応策への譲与税の積極的な活用を助言しています。</p> <p>特に、国が譲与税の幅広い活用を図るために令和4年6月に作成した取組事例リストなどを基に、譲与税の一層の活用を働きかけています。</p> <p>また、令和3年度からは、森林・林業に関して一定の知識を持ち、市町村業務の支援を行える地域林政アドバイザーの育成・確保を進めています。</p>	森林経営課
県産木材の使用	<p>現在、県立総合体育館建設が話題になっているが、建設の際には、ぜひ県産木材をたくさん建設資材として使っていただきたい。</p>	<p>スポーツ・コンベンションセンターへの県産材の活用については、令和4年3月に策定した基本構想において、「県産材を活用した木質化の検討や本港区の石蔵で使用されたような石材の活用など、整備に当たっては、地域資源の活用により鹿児島らしさを感じられるような施設となるよう配慮する」と整理したところです。</p> <p>また、スポーツ・コンベンションセンターの整備運営を行う事業者の選定に当たり、県産材の積極的な活用を事業者に求めることとしております。</p>	スポーツ・コンベンションセンター整備課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
計画的な森林伐採と再造林	<p>隣県の業者が鹿児島に進出してきており、木を切るのはいいが、その後の再造林をせずに帰っていかれる。そういう方々が入ってくると山が荒れてしまわないかと非常に危機感を持っている。山を切ると、しばらくの間保水力が落ちるため、我々は注意を払いながら、計画的な山づくりをしている。</p> <p>そのような話があったら、慎重に対応していただきたい。</p>	<p>森林の伐採及び伐採後の造林については、森林法において林業事業者等が伐採前に市町村長に対し、伐採等届出を提出することになっています。</p> <p>県としては、再造林を推進するため、市町村に対し届出を受理する際に再造林を督促していただくよう助言するとともに、林業事業者等に対し同様の趣旨の文書指導を行っているほか、違法な伐採の防止及び再造林推進のチラシの配布や関係機関による巡視活動を行っています。</p> <p>また、県境を越える伐採の事案については、関係する県の間で情報共有に努めており、併せて南九州4県の林業事業者に対し、違法な伐採の防止や再造林の促進に関する指導文書を発出しています。</p>	森林経営課
加治木港の修復工事	<p>始良市花火大会の打ち上げ場所となっている加治木港の新バースエリアについて、令和4年の台風で被害を受けたままの状態となっている。</p> <p>私たちは、始良市、鹿児島県とも協力し、花火大会を加治木港で安全に開催したいと思っている。そのためにも、加治木港の新バースエリアの修復工事を御検討いただきたい。</p>	<p>令和4年9月の台風14号により被災した加治木港の岸壁取付護岸については、現在、復旧工事を行っているところです。</p> <p>復旧まで御不便をおかけしますが、御理解いただきますようお願いいたします。</p>	港湾空港課
国道10号線の渋滞	<p>長年、地元や県民の多くが、国道10号線の渋滞を問題と捉えている。これまで、大きな事故の発生がなくても、仙巖園付近で、自然に渋滞が発生している。特に土曜日、日曜日は、渋滞が激しく、鹿児島市内への到着時間の目安が立たない。</p> <p>この長期間に及ぶ国道10号線の渋滞問題を知事はどのように考えられているか。</p>	<p>国道10号については、国が、慢性的な交通渋滞の緩和を目的として、鹿児島北バイパスの整備を進めているところであり、鹿児島市吉野町花倉付近から同市小川町へ至る全体計画延長約5.3キロメートルのうち、これまで、終点の小川町側から1.2キロメートルが供用されています。</p> <p>現在、残る4.1キロメートルにおいて整備が進められ、祇園之洲地区で道路改良及び橋梁下部工の工事が行われています。</p> <p>県としては、更なる国道10号の整備促進が図られるよう、引き続き、国に要望してまいります。</p>	道路建設課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
地域猫の取組	<p>ペットとりわけ猫に対する感情というのは、ここ20年ぐらいで大きく変化してきており、動物愛護法でも動物に対する虐待をした場合の罰則が厳しくなり、各自治体においても、動物愛護条例が制定され、住民の理解も非常に高まっているというのが現状である。</p> <p>いわゆるノラネコと地域猫をはっきり区別することの大切さ、また地域猫に対して行政として何らかの対策を実施することなど、問題がいくつかあると思うが、現在の知事の認識をお聞きしたい。</p>	<p>県では、猫に起因する生活環境被害の軽減や猫の引取り数の減少を図るため、令和3年度から新たに、県内で地域猫活動に取り組む団体や、団体へ不妊・去勢手術費用の助成を行う市町村に対して、手術費用の2分の1や飼養管理費用の一部の補助を行っています。</p> <p>また、県民向けの「地域猫の手引き」をホームページに公開するとともに、地域猫活動が予定されている地域の方々に対しては、団体及び関係市町村と連携し、活動の趣旨等について丁寧な説明に努めてまいりたいと考えています。</p>	生活衛生課
児童生徒の通学路の安全	<p>児童生徒の通学路の安全について、登校時は、多くの見守り隊のボランティアが、早朝から1時間程度立哨（りっしょう）に立って、交通安全とともに、通学路の安全が守られているが、下校時は、高学年と低学年とで下校の時間に非常に差があつて、立哨に立つことが厳しい状況であり、安全の面で非常に不安があるというのが現状だと思う。</p> <p>今、各自治体が、公園などに防犯カメラを設置している。県全体としてこの設置を考えるというのは、莫大な費用がかかるが、そういった児童生徒の安全を考える上で、通学路の何か所かに、防犯カメラの設置を検討する考えはないか。</p>	<p>始良市においては、本年度、約660人のスクールガードや防犯ボランティア等による見守り活動が行われています。</p> <p>ボランティアとして、登校時間は、多くの方々の協力が得られていますが、下校時間は、学年で異なる時間帯に対応するための十分な人数が確保できないところではあります。</p> <p>各学校では、児童生徒等に対して、危険箇所を示した安全マップで通学路の危険箇所を確認させ、様々な状況や場面において危険を予測し、安全に行動できる能力を身につけさせるよう努めています。</p> <p>併せて、市町村教育委員会や学校においては、地域における自主防犯パトロールや教職員等による巡回、状況に応じた集団下校等を行っています。</p> <p>県教育委員会では、市町村教育委員会や学校が行っている交通安全教室や不審者対応訓練等による安全教育を推進できるよう支援してまいります。</p> <p>また、県警察では、防犯カメラを設置する自治体や町内会等に対して、犯罪発生状況や運用方法に関する助言を行っています。</p> <p>子供の犯罪被害防止対策については、登下校時間帯を中心に、防犯ボランティアや学校関係者と連携して、集団登校時の集合場所やスクールバスの停留所、登下校の際に子供が集まる可能性のある場所を含めた通学路等の見守り活動や、制服警察官、パトカーによるパトロールを実施しています。</p> <p>さらに、県警あんしんメールによる声掛け事案等の情報提供や、小・中学校との不審者情報の共有体制を構築しているほか、学校と連携して、不審者侵入対応訓練や「子ども110番の家」駆け込み訓練等も行っています。</p> <p>県警察としては、今後も関係機関・団体、地域住民等と連携して、通学路等における子供の安全確保に努めてまいります。</p>	生活安全企画課 保健体育課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
サッカースタジアムの整備	<p>鹿児島市が本港区エリアに整備しようとしているサッカースタジアムについて、始良市に整備してほしい。</p>	<p>Jリーグでは、Jクラブの本拠地を「ホームタウン」と呼んでいます。「Jリーグ規約」には、Jクラブはホームタウンと定めた地域で、その地域社会と一体となったクラブづくりを行いながらサッカーの普及、振興に努めなければならないとされており、鹿児島ユナイテッドFCについては、鹿児島市をホームタウンとしています。</p> <p>ホームタウンである鹿児島市において主体的に検討を進められているサッカー等スタジアムについては、J1基準を満たすスタジアムが必要とのことで検討が始まったものと認識しています。</p> <p>同市においては、整備候補地について、これまで検討していた本港区エリア内のドルフィンポート跡地と住吉町15番街区を断念し、同エリア内の北ふ頭への整備の可能性について調査しているところです。</p> <p>現時点において、鹿児島ユナイテッドFCのホームタウンを変更するような議論はないものと承知しています。</p>	スポーツ・コンベンションセンター整備課
中部横断道路の建設	<p>国道10号線の渋滞対策を図ることこそが、始良の商店街を利用してもらうための最善の方策ではないかと検討を重ねた結果、我々が導き出した方策は中部横断道路の建設であった。</p> <p>県道北永野田小浜線、県道栗野加治木線、県道川内加治木線、県道下山田帖佐線をつなぐ大動脈として、中部横断道路建設を県の事業として検討していただきたい。</p> <p>もし、県の事業として予算配分が難しいのであれば、高速道路、直轄国道とのダブルネットワークという意味で、国の事業として検討してもらいたい。</p> <p>始良市内には国道10号と九州自動車道の二本の大きな道路が通っているが、大雨などの大災害のときには、すぐに通行止めとなり、孤立してしまう。ある意味、始良市加治木町はミッシングリンクの地といえるのではないかと。ミッシングリンクを解消してほしい。</p>	<p>「中部地域横断道路」は、始良市域を横断する道路構想であり、始良市都市計画マスタープランにおいて都市幹線道路として位置づけられています。</p> <p>近年、始良地域においては、東九州自動車道の加治木インターチェンジから隼人西インターチェンジ間の4車線化や大型商業施設であるイオンタウン始良東街の開業、桜島スマートインターチェンジの開通など、周辺を取り巻く環境が大きく変化しています。</p> <p>これらの変化が地区内の交通渋滞にどのような影響を与えているかを適切に把握し、始良地域の道路網のあり方や本道路の整備効果、全体事業費、事業主体など様々な検討課題があると考えています。</p> <p>現在、始良市内において、県道伊集院蒲生溝辺線の蒲生工区や県道小山田川田蒲生線の白男工区の道路改良などを進めており、県としては、まずは事業中箇所の早期整備に努めることとし、御意見の道路については、始良市域における道路網を検討する中で、その必要性等を検討してまいります。</p>	道路建設課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
国と地方の役割	<p>国と地方の役割について、道路の維持管理一つとっても、国道、県道、市道と3種類あり、調べた範囲では、3つの維持管理する組織が存在しているが、より住民に身近な市町村に集約し、組織を一つにすることで、財政的にも節約でき、日々の道路美化にきめ細かい対応ができるのではと思う。これは一例で、他にもそれぞれかぶっている行政の仕事はあると思う。</p> <p>これからの国と県、市町村の役割について、見解をお聞きしたい。</p>	<p>国・県・市町村は、各行政分野において、それぞれ適切に役割分担しつつ、行政サービスの提供に取り組んでいるところです。</p> <p>今後も適切な役割分担の下で行政サービスの提供・充実に努めていく必要があると考えています。</p> <p>なお、県においては、「住民に身近な事務は可能な限り、住民に身近な市町村において処理することが望ましい」という考え方のもと、パスポートの発給申請・交付やNPO法人の設立認証など、その趣旨に合致した539事務について、希望する市町村に対し、権限移譲を行っています。</p> <p>例示のありました道路については、道路網上に占める役割によって分類されており、一般国道は、高速自動車国道とあわせて全国的な幹線道路網を、都道府県道は、地方的な幹線道路網を構成し、市町村区域内のその他の道路が市町村道となっています。国・県・市町村がそれぞれの役割分担のもとに道路の効率的な整備、維持管理に努めているところです。</p>	<p>行政経営推進室</p> <p>市町村課</p> <p>道路維持課</p>
加治木港の活用	<p>加治木港の有効利用について、現在鹿児島市の本港区の利活用が話題となっているが、加治木港も同様に、鹿児島港と鹿児島空港と動線をつなぎ、戦略的な広域観光による海上交通の要衝になることに加えて、市民の憩いの場として生まれ変わるのではないかとと思う。</p> <p>始良市から見える桜島の景色を最大限生かすためにも、これらの実現性と知事の御意見、御見解をお聞きしたい。</p>	<p>加治木港は主に建設資材の移入、金属鉱の移出港として利用されています。海上交通の港としての利用については、船舶の運航事業者や観光客のニーズ、地域の関係者の気運の高まりなどを踏まえる必要があると考えています。</p> <p>なお、加治木港の東端の日木山川河口右岸に、錦江湾や桜島の眺望を生かした黒川岬展望公園を平成30年度から令和元年度にかけて地域振興推進事業で整備しています。</p>	<p>港湾空港課</p>

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
二次医療圏の考え方	<p>県が医療政策のために設定した二次医療圏について、始良市は霧島市、湧水町、伊佐市とともに、始良・伊佐保健医療圏になっている。</p> <p>始良市で開業している医師として、心疾患で、二次救急、三次救急の必要な方を診ることがあるが、始良市には急性期医療施設がなく、救急搬送先として、二次医療圏である霧島市ではなく、ほとんどの方が鹿児島市の病院を希望される。</p> <p>始良市を二次医療圏として鹿児島医療圏の中に組み入れることができないのか。</p>	<p>二次医療圏とは、自然的条件及び社会的条件を考慮して、一体の区域として医療機関における「入院医療」を提供する体制の確保を図ることが相当である区域のことであり、設定に当たっては、地理的条件や交通事情、入院医療に係る患者の流出入の実態、救急医療も含めて主な疾病ごとの医療連携体制など様々な事項を考慮しているところです。</p> <p>このように県では二次医療圏を設定しているところですが、消防機関が行う救急搬送においては、疾病や傷病程度、かかりつけ医の有無又は患者並びに家族の希望等を勘案し、搬送調整を行っており、圏域外の医療機関へ搬送する場合があります。</p>	保健医療福祉課
介護福祉施設等の整備	<p>国における介護福祉、あるいは高齢者福祉等について、在宅医療が進められているが、山間部において、老々介護あるいは認知症を持った一人暮らしの方、そういう方に、在宅医療を行うのは非常に難しいという点がある。できれば、その地域の中心部に、そういう高齢者たちが入るような施設をつくる必要があると思う。</p>	<p>独居高齢者及び認知症高齢者の増加などの高齢者を取り巻く状況の変化に伴い、介護サービスに対するニーズは多様化しています。</p> <p>高齢者ができる限り住み慣れた自宅や地域で安心して自立した生活が送れるよう在宅サービスの充実を図り、自宅等での生活が困難となった場合には、施設でのサービスが利用できるよう整備を進めています。</p> <p>市町村は、高齢者の実態や、サービスの利用に関する意向等を把握した上で、地域の実情に応じたサービス基盤を整備しているところです。</p> <p>県としては、地域の特性を踏まえた介護サービスが確保されるよう、施設整備も含め引き続き、市町村と連携しながら取り組んでまいります。</p>	高齢者生き生き推進課 介護保険室

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
特別支援学校の設置	<p>始良市から県立の牧之原養護学校へ通学する子供たちは、在校生352人のうち、80人を超えている。バスでは、90分を超える通学となっている。そこで、昨今インクルーシブ教育が推進されているが、県立蒲生高校へ小中高一貫の特別支援学校の併設を考えていただけないか。</p>	<p>牧之原特別支援学校では、施設の狭隘化が課題となっており、また、通学バスを利用する一部の児童生徒は、長時間乗車が大きな負担となっています。このような状況を踏まえ、令和4年度に設置した特別支援学校等教育環境改善検討委員会において、牧之原特別支援学校の通学区域のうち、曾於地区と始良地区については、特別支援学校の分置を検討することが望ましいといった提言がなされました。県教育委員会では、牧之原特別支援学校の現状と検討委員会からの提言を踏まえ、令和5年4月に設置した特別支援学校等教育環境改善推進協議会の協議結果に基づき、市町村教育委員会など関係者と連携を図りながら、分置に係る整備計画の策定に取り組んでまいります。なお、始良市から牧之原特別支援学校に通学する児童生徒の負担軽減を図るため、通学バス（蒲生の児童生徒が利用する始良線）の高速道路利用を令和5年11月から開始し、約20分間の短縮を図ったところです。</p>	特別支援教育課
鹿児島マラソンの名称変更	<p>「鹿児島マラソン」は、鹿児島市内から始良市の重富までを走るコースとなっている。始良市内を10キロ以上走るわけであるが、その間、日曜日、朝8時過ぎから、夕方まで国道10号線は車両通行止めとなってしまふ。始良市民の方は当然移動はできないし、緊急車両の移動もできない。できればその間、例えば高速道路を無料にするとか、もしくは早い段階で、国道10号線の4車線化をしていただくとか、もしそういうことがなかなか難しいのであれば、名称を「始良鹿児島マラソン」にしていきたい。鹿児島市の方の問題ではあるが、鹿児島市は参加料を取って、経済効果もあるが、始良市にはボランティアを出せと、医療機関に協力を出せと、そういうことだけ要求されるわけなので、調整ができれば、「鹿児島マラソン」の名称を「始良鹿児島マラソン」へ変更していただければありがたい。</p>	<p>「鹿児島マラソン」については、「鹿児島マラソン実行委員会」等が主催して開催しています。いただいた御意見につきましては、同実行委員会の事務局である鹿児島市にお伝えしたところです。</p>	スポーツ振興課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
原発への認識	<p>原発事故があつてから絶対に原発なんかあつたら駄目だ、安心して暮らせないなと思っているが、知事はあの事故が起きて、これまで原発に持っていたイメージや思い、考えが変わつたのかどうか伺いたい。</p>	<p>原子力発電所については、福島第一原発のような事故はあつてはならないことだと考えています。 川内原発については、県民の生命と暮らしを守る観点から、安全対策・防災対策の充実・強化に取り組んでまいります。</p>	原子力安全対策課
再生可能エネルギーの活用	<p>福島の原発事故後に、再生可能エネルギーが注目され、太陽光発電も普及して、このまま原発なしで暮らしていけるのかなという期待を持った。 特に鹿児島は日照も多いし、太陽光だけではなく、地熱、風力、バイオマス等の計画もたくさんあつて、再生可能エネルギーの資源に恵まれている土地だと思うが、本当に原発が必要なのか、原発がなくても何とかできるのではないかと思う。 県の施設にも太陽光パネルがたくさん載っているが、最近は出力制限があつて、その多くを捨てていると聞く。 私たちが危険にさらす原発を運転しながら、再生可能エネルギーで発電した電気を捨てているという状況をどう思うか。</p>	<p>電力の安定供給のためには、需要と供給のバランスをとる必要があり、出力制御は、春や秋などの電力需要が比較的少ない時期に、電気の供給量が需要量を上回ることが見込まれる場合に行われています。 国の第6次エネルギー基本計画においては、再生可能エネルギーの出力制御を最大限低減、効率化するための施策を推進するとされています。 県としては、国に対して、出力制御の実施が低減されるよう、九州と本州を結ぶ送電線である関門連系線の増強による域外への送電可能量の増大などについて、要望を行っているところです。 また、再生可能エネルギーの一層の導入拡大を図るため、蓄電池等の自立・分散型エネルギー設備導入に対する支援を行っているところです。</p>	エネルギー対策課
原発の廃炉	<p>原発というのは絶対に想定外があつてはならないし、絶対に事故を起こしてはならないものだと思う。事故があれば、鹿児島島の宝も人々の生活も一瞬にして奪われてしまう。 そんな原発が近くにあつて、本当に県民の命と暮らしが守れると知事は考えるのか。 私は原発があるだけで不安で、止めるだけでなく、廃炉にしてほしいと思う。</p>	<p>国の第6次エネルギー基本計画において、原子力発電は、二酸化炭素の排出削減に貢献する電源であり、安全性の確保を大前提に、長期的なエネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源として位置づけられており、いかなる事情よりも安全性を全てに優先させ、国民の懸念の解消に全力を挙げることにされています。 また、安全を最優先し、経済的に自立し、脱炭素化した再生可能エネルギーの拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減することとされています。 川内原発については、県民の生命と暮らしを守る観点から、安全対策・防災対策の充実・強化に取り組んでまいります。</p>	原子力安全対策課 地域政策課

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
原発の運転停止	<p>震災後は、原発が稼動していなくても、みんな節電をしたりして、暮らしが成り立っていたと思う。無尽蔵に電気を使う必要はなく、ありがたがって使うぐらいでもいいのではないかと思う。それだけ電気は作ることが大変なことなんだということで、もっと電気が使いたいと思えば、もっと再生可能エネルギーに対する力というか、それを何とか安定的に使えるようにしようという方向になるのではないかと思う。</p> <p>もし、少しでも知事が、原発が近くにあって、もし事故が起こったら、県民の命や暮らしが守れないと思われる場所があったら、今すぐにでも原発を停止していただきたい。私たちの暮らしを守っていけるように、人の育成や、対応を考えるというのはもちろん大事だが、それだけに任せたら、今この瞬間にも事故が起こるかもしれないので、まず止めて、それから生活が回っていきえるように考えていただけないか。</p>	<p>原子力政策を含めたエネルギー政策については、基本的に国の責任で行われるものと承知しており、令和3年10月に策定された「第6次エネルギー基本計画」では、2050年カーボンニュートラル実現という長期展望を踏まえ、安全性を前提とした上で、エネルギーの安定供給、経済効率性の向上、環境への適合を図るため最大限の取組を行うこととされています。</p> <p>具体的には、徹底した省エネの更なる追求や水素等の非化石エネルギーの導入拡大、再生可能エネルギーの主力電源化の徹底など、エネルギーの需給構造の改革を進めていくための取組が盛り込まれています。</p> <p>本県における再生可能エネルギーの導入促進については、当該計画を踏まえた国の動向を注視しながら、令和5年3月に策定した「鹿児島県再生可能エネルギー導入ビジョン2023」に基づき、更なる実効性のある対策に取り組んでまいります。</p> <p>また、原子力発電所については、安全性の確保が最優先だと考えています。</p> <p>川内原発については、県民の生命と暮らしを守る観点から、安全対策・防災対策の充実・強化に取り組んでまいります。</p>	<p>原子力安全対策課 エネルギー対策課</p>
日本遺産の活用	<p>令和元年5月に、蒲生麓を含む9市11麓が日本遺産に認定された。</p> <p>まちづくりのNPOのメンバーとして、この日本遺産を活用して観光客を誘致するなどの取組を地域で行っているが、予算的に厳しい状況がある。こういった市民の活動において、やる気を持って取り組めるような助成制度を設けたり、また、県と市、地域の我々が語らうような場を持つたりしてほしいと思う。</p> <p>また、今後、県の政策として、日本遺産をどのように捉えて、インバウンドに生かしていくかというのを、知事にお聞きしたい。</p>	<p>日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」については、県・関係市・団体等からなる協議会を作り、日本遺産を活用した地域活性化・観光振興に取り組んでいます。</p> <p>この協議会では、スタンプラリーやフォトコンテスト等の事業のほか、これまで多言語のパンフレットやホームページも制作しており、観光部局や関係市等と連携しながら、それらの媒体を活用した情報発信や効果的なPRなど、インバウンドに向けた活動に取り組んでいるところです。</p> <p>また、事業の実施に当たっては、県や関係市の担当、地域の関係者等で構成されるプロジェクト委員会を設置し、委員の皆様からの御意見等を参考に事業内容の検討を行っているところです。</p> <p>なお、今年度から文化庁において、協議会や関係市等が日本遺産により文化観光の推進を図る目的で行う事業の経費を負担する「日本遺産魅力増進事業」などが創設されたことから、当該事業の関係市等への周知を行ってまいります。</p>	<p>文化財課</p>

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>国体における地域スポーツの振興</p>	<p>県のスポーツ協会に所属して、強化指導員として県外の方が来られる。その選手が来てくださるのはいいが、できるだけ国体の趣旨である、地域スポーツの振興というところで、努力して下さったらいいなという期待を持っていた。 しかし、実際は、練習環境が整わないなどの理由で試合だけ出場するというようなことであった。 関係者もそれを受け入れて、前向きに取り組んでいて、国体が成功するようにサポートしているが、国体の目的である地域スポーツの振興と、天皇杯、皇后杯で上位となるという、その目的がどちらが優先されるのか、個人的には残念に思っている。 知事の考えを聞かせてほしい。</p>	<p>本県選手が国体をはじめ、全国大会や国際大会等で活躍することは、県民に夢と感動を与え、一体感・連帯感を高めて郷土愛を培うとともに、地域に活力を与えるものと考えています。 そこで、県では、「かごしま国体」に向けて競技力の向上に取り組んできたところであり、その取組の一つとして、競技団体と十分に協議した上で、国内外の大会等において好成績を収めている成年選手のトップアスリートを県スポーツ協会の強化指導員として委嘱しています。 強化指導員は、国体での入賞を目指し、自身の競技力の向上に努めつつ、少年選手の育成・指導に携わるなど、本県のスポーツ振興にも大きく貢献しています。 強化指導員の中には、国内外での大会参加や日本代表の長期合宿など、多忙な選手もありますが、そのような場合においても、機会を見ながら、県内での強化練習や少年選手への育成・指導等に取り組んでいるところです。 「かごしま国体」を契機として、育った選手たちが更に経験を積み、将来は優れた指導者となって次世代のジュニアアスリートの指導に携わるなど、「長期的な好循環」を生み出す取り組みを充実させていくことが、今後の本県の更なるスポーツ振興につながるものと考えています。</p>	<p>競技力向上対策課</p>
<p>地域ブランドの推進に向けた販路拡大・認知度向上</p>	<p>始良市は県内一の裸麦の生産を誇るどころであり、その裸麦を使ったお菓子や調味料などを加工販売している。 生産業者、加工業者、農家、飲食店、皆さん頑張っているところだが、横のつながりを求めている。 何かをしたいと思っているが、どう形にしているかわからないというところがやっぱり大きいと思う。皆さん考えていることは販路拡大とか、認知度アップというところ。 近隣の市町村の方々が、地域ブランドを立ち上げるなどして頑張っているのを見ていて、私たちも何かやりたいなとは思いますが、やり方が分からない。県の目線で、優良事例について、連携をとって教えていただきたい。</p>	<p>県では、地域の資源や技術等を活用した特産品の開発、販路開拓等を推進指導するため、（公社）鹿児島県特産品協会に特産振興支援員を設置しており、企業等への販路開拓の提案や指導のほか、マッチング支援等を行っています。 また、県産業会館内にある県特産品協会が運営するブランドショップや東京都有楽町にあるかごしま遊楽館内のアンテナショップ、全国各地で開催される百貨店での鹿児島物産展など、県産品を広くPRする場を提供していますので、積極的に御活用いただければと思います。 併せて、農林漁業者や食品関連事業者等に対しては、地域の農林水産物の付加価値向上に向けた取組を推進するため、大隅加工技術研究センターに食品加工事業者連携推進員を設置し、農産物の加工・販売等に関する支援を行っているところです。 また、専門家派遣や商談会への出展等による商品のブラッシュアップやwebカタログによる販路開拓等を支援しておりますので、かごしまの食輸出・ブランド戦略室まで御相談ください。</p>	<p>かごしまの食輸出・ブランド戦略室 販路拡大・輸出促進課</p>

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
物産館の設置	<p>始良市は旧始良町と加治木町、蒲生町の3町が合併したところだが、現在のところ旧蒲生町にしか物産館がない。 この地域が都市部への通過点とか、通り道であるならば、市外の方が立ち止まり、お土産を買って帰る場所として、ぜひ物産館を建設してほしい。</p>	<p>各地域の物産館の設置については、まずは地元の市において設置の必要性等を検討していただいた上で、県として何か支援できることがあれば検討していきたいと思います。</p>	-
空き家を生かした移住の促進	<p>始良市は鹿児島市、霧島市への通勤通学を支える文字どおりのベッドタウンで、人口は増えているかもしれないが、肝心の人材の確保育成というのは厳しい状況だと感じている。 人材を確保するためには、移住を促進する必要がある。その移住促進のために空き家を生かした移住などを推進できないかと思う。始良市における空き家バンクへの登録数は5件となっているが、鹿児島移住ネットを運営されている県としては、この5件をどのように捉えているか。 また、空き家の活用等についてアドバイスをいただきたい。</p>	<p>県では、移住に関する情報を紹介するサイト「かごしま移住ネット」において、県外からの移住希望者の方々に、空き家バンク制度の周知や移住相談員による住宅に関する相談に対応しています。 住まいについては、それぞれの市町村が空き家バンクを活用するなど確保に努めているところですが、所有者が不明、改修費用の負担が生じるなどの理由から、空き家の確保が課題となっています。 このようなことから、県では、市町村が空き家等を取得し、移住者向け住宅に改修する場合は、その改修費用の一部を市町村に補助する制度を整備し、移住者向けの住宅確保を進めているところです。 このほか、県、市町村及び専門家団体等で構成するかごしま空き家対策連携協議会を設置し、市町村の空き家対策の取組を促進しています。当協議会での市町村職員向け研修会において、地域における空き家活用の先進的な取組などについて情報提供を行っているところです。 加えて、地域活性化に資する空き家の再生を促進するため、これまで実施した「かごしま空き家活用コンテスト」の応募作品や「空き家を地域の宝に！～利活用アイデア学生コンペ～」の提案作品を県のホームページに掲載するなど、地域のニーズに合わせた空き家活用策についての情報を発信しています。 引き続き、市町村に空き家バンクや空き家活用等の取組を進めてもらうため、研修会等を通じた情報の提供を行ってまいります。</p>	産業人材確保・移住促進課 住宅政策室

知事とのふれあい対話（始良市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
県道の整備	<p>空き家が活用されない要因の一つとして、中山間地域につながる県道の整備も大きな要因になるのではないかと思う。中山間地域につながる県道の整備に取り組んでほしい。</p>	<p>半島地域や多くの離島など広大な県土を有し、移動手段を自動車交通に大きく依存している本県にとって、道路交通ネットワークの構築は大変重要であります。</p> <p>県としては、産業の振興や地域の活性化、県民生活の安心・安全の確保を図る観点から、地域の御要望や整備の必要性・緊急性などを考慮し、計画的に道路整備を進めてまいります。</p>	道路建設課
観光協会への人的応援	<p>観光協会も人手不足、人材不足に悩んでいる。ぜひ観光協会と一緒に汗を流してくださる県の職員の方々の、人的応援をお願いしたい。</p>	<p>県においては、稼げる観光地域づくりに取り組む地域の観光地づくり法人（DMO）等に対し、団体の組織体制の強化や、人材養成講座のほか、専門家派遣や、地域資源磨き上げ、観光コンテンツ造成等の実践事業への助成による伴走支援に取り組んでいます。</p> <p>まずは、PR観光課観光地域づくり等担当に御相談ください。</p>	PR観光課
ユニバーサル化の推進	<p>鹿児島でも、バリアフリーではなくてユニバーサルの観点から、障害の有無にかかわらず、過ごしやすく、暮らしやすくなるような県内のユニバーサル化を考えていただけたらと思う。</p>	<p>県では、平成11年に「鹿児島県福祉のまちづくり条例」を制定し、障害者等の社会参加の環境づくりや障害者が安全かつ快適に利用できるような施設等の整備促進に努め、すべての県民が心豊かで住みよい環境づくりを目指しています。</p> <p>ユニバーサルデザインについては、暮らしやすい安全な都市づくりを目指し、都市内の道路整備では、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた、歩行者優先の空間形成を図ることとしています。</p> <p>現在、始良市の帖佐駅から大型商業施設までの県道について、「駅前を中心としたまちづくり」を積極的に進める観点から、県が道路の拡幅や歩道の新設等を行い、市が駅前広場の整備を行う、街路事業を実施しているところです。</p> <p>当区間は、駅前を中心に歩行者が多く、周辺の小中学校の通学路でもあるため、歩道整備においては視覚障害者誘導用の点字ブロック設置や、無電柱化を進めるなど、ユニバーサルデザインに配慮した歩行空間の整備を進めることとしています。</p> <p>今後とも、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、安心安全に暮らせる都市づくりを進めてまいります。</p>	障害者支援室 都市計画課